

令和元年度 社会厚生常任委員会行政視察報告書

令和2年1月22日

1. 日 程 令和元年10月15日（火）～16日（水）
2. 視 察 先 埼玉県志木市 市政施行 昭和46年10月26日
人口 76,485人（令和元年10月1日現在） 面積 9.05 km²
※65歳以上の高齢者の人口18,617人(24.34%)
埼玉県加須市 市政施行 平成22年3月22日（1市3町合併）
人口 112,205人（令和元年5月1日現在） 面積 133.30 km²
3. 視察事項 志木市 ・いろは健康ポイント事業について
加須市 ・コミュニティバス「かぞ絆号」運行事業について
4. 視 察 者 委 員 佐藤 俊夫 委員長 滝沢 茂秋 委 員
関 龍雄 副委員長 山田 義栄 委 員
大橋 一久 委 員 安田 憲喜 委 員
当 局 藤田 和夫 福祉事務所参事
随 行 美原 弘美 議会事務局係長 計8名

◎志木市の概要

市名は、明治7年の合併を県に委ねた結果、「風土記」などにある「志木郷」に由来する。県南西部に位置し、水と緑、人と自然が調和した都市である。

市の中心部を流れる新河岸川ほか三本の川が志木市のシンボルであり、歴史的には舟運で栄えた商業都市として発展。都心から25km圏内で交通の便が良く交通上、経済上の要衝地。身近な自然を愛し、健康を育み、平和な社会を目指すことを志木市民共通の願いとしている。そのため、水に親しみ、みどりを育て、健康なからだを育てることを理念として、市政施行25周年にあたり、「志木市きれいな水とみどり豊かな健康平和都市」を宣言している。

○いろは健康ポイント事業について

【事業の概要】

運動や健康に役立つことをした場合などにポイントが獲得でき、そのポイントを貯めることで商品券と交換できるもので、楽しみながら健康づくりが継続できる事業。

【事業の目的】

すでに運動を行っている方だけでなく、健康には興味はあるが、なかなか運動を始められない方や、始めてみたけれど継続できない方などを対象とし、運動や健全な食生活を維持・継続できるきっかけづくりとなることを目的にしている。

【内 容】

参加は3つの条件を満たした方で①40歳以上の市内在住者②歩数計と体組成計のデー

タを専門端末から送信する（データ送信回数は最低 2 週間に 1 回）③令和元年 7 月からこの事業に参加できる方となっている。

必須条件として①歩数計を持ち歩く②歩数計と体組成計測定データを専門端末から送信する。任意事項として①市が指定する健康プログラム作りに参加（運動や食生活指導）②人間ドックの結果の写しを提出する③市のガン検診を受診すること。

操作は健康データポイント計測会に配布された歩数計を持ち歩き、データを専門端末『あるこう！かざすくん』という読み取り器（市役所など市内 30 カ所に設置）にかざして送信し、読み取り器に併設されている体組成計（体重計）により体重、BMI などを計測送信する。また『あるこう！かざすくん』と一緒に設置してある健康ポイントの交換方法は、500 円単位で志木市商工会商品券と交換でき、最大 3,000 円分の商品券と交換できる。

この取り組みは、健康寿命をのばすマッスルプロジェクトとして健康寿命の延伸と医療費の適正化を目指す健康寿命モデル事業として、国保特別交付金事業として県から交付を受けて事業化した。背景に国保医療費の伸び率が県内 4 位であったことがある。そこで、了徳寺大学教授の山下工学博士の医療費分析や介護分析により、具体的施策で市民が楽しく健康になり、結果、行政負担が軽減する仕組みを作った。

志木市の 100 万円以上の医療費は全体の 5 割を 2.8%の人が使っており、慢性疾患 3 個以上の方が 59.7%を占めている。慢性疾患を多く持つ人は病院に継続的にかかり医療費をたくさん使う傾向があり、医療費は全体の 8 割を 18.8%の人が使っている。後期高齢者への影響は、ウォーキング効果などにより例えば高血圧の場合、127,556 円の削減があった。このことから『健康になりまっする教室』の参加者は年間約 8 万円の医療費抑制効果が確認でき、特に高血圧などの慢性疾患のリスクを複数持つ人については医療費が減少し、活動することや食事の見直しをすることにより生活習慣が改善する効果があった。

現在 4 つの自主サークルが活動しており、その中でノルディックウォーキング、ポールウォーキング全国大会を開催するなど活動の輪が広がっている。みんなが進める健康寿命日本一まちづくり『～人生 100 年時代！健康で心豊かに暮らせるまち志木市～』の基本理念のもと、2019 年度から 2023 年度までの 5 か年で推進する取り組みも実施中である。

【所 感】

全国各市町村で様々な健康予防対策に取り組んでいるが、市民のデータを収集・分析して効果を上げ、市民意識の向上のため具体的な削減額の提示を行っていることは先進的である。運用管理は民間委託を活用し、研究者のアドバイスも活用することで科学的分析も可能な事業となっている。

加茂市の高齢人口も 9,348 人（36.1%）で県内 14 位、県平均（32.3%）を上回っていることから、従来の医療費のかさ上げではなく、病気にならない施策に力点を置くべきと感じた。

これからの病気の患者のうち、ストレス患者が 3 人に 2 人になるといわれている。生活習慣病の増加、生活習慣の改善の困難さ、摂取エネルギー過多、運動不足、人間関係

の複雑さ、小家族世帯の増加、地域共同体の衰退など我々を取り巻く現状は多岐であることから、ウェルネス（ジョギング、登山、街歩き、ウォーキングなど）の必要性が重要と感じた。

◎加須市の概要

東京都心より 50 km圏内、県東北部の関東平野のど真ん中に位置する。北は群馬、栃木、茨城県に接し、市内を利根川が流れている唯一の市である。江戸期は利根川を利用した水運の要衝として発展。また、中山道と日光街道を結ぶ宿場町であり、関東三大不動尊の一つの不動ヶ岡不動尊 総願寺の門前町として栄えた。

利根川の堆積地で形成された平坦地で、古き良き歴史を残し、都市機能が集積する市街地とその周辺に広がる水と緑の豊かな農村地帯が調和した町である。さらに、埼玉県一の生産量を誇る米をはじめ梨、トマト、いちじく、いちごなど豊富な農産物の生産と歴史ある建物や祭事など各地域に多くの貴重な文化財が存在している。

5月3日に開催される加須市民平和祭では、世界一大きい全長100mのジャンボこいのぼりが遊泳する。日本有数の手打ちうどん処で、暮らしに根付いた食文化として元禄時代の記録が残る歴史あるうどんの町でもある。

○加須市コミュニティバス「かぞ絆号」運行事業について

【事業の概要】

加須市のコミュニティバス「かぞ絆号」は、原則として行政区域をエリアとし、病院やスーパー、公共施設もしくは駅のような交通結節点などへの身近な市民の足として、平成24年10月から、市の地域特性を踏まえデマンド型乗合タクシー、シャトルバス、循環バスの3つ運行方式を組み合わせ、埼玉県内唯一の方式により運行している。

【内 容】

(1) シャトルバス

幹線を公共交通の軸として、市内の速やかな移動や、市の一体性の醸成を図るために設定しており、定員10名のワンボックス車両を使用して、市を南北に縦断する形で1日8便4往復の運行となっており、料金は200円である。

(2) デマンド型乗合タクシー

幹線で対応できない地域を、循環バスとともにきめ細かくカバーできるように設定しており、新たなコミュニティバスの中心として循環バスとともに導入した。

定員10名のワンボックス車両を5台使用して運行している。

予約受付・配車及び運行などの一連の流れが効率的に実施するため、予約受付・配車システムを導入しており、電話1本で自宅から市内の行きたいところまで、いわゆるドア・ツー・ドアで利用者を送迎する。

市内を3つのエリアに分け、それぞれのエリア運行しており、1日の運行便数は各10便で料金は300円である。

(3) 循環バス

デマンド型乗合タクシーの補完を目的に、加須駅と花崎駅の周辺のみを運行している。

周辺地域は、暮らしに必要な医療機関や店舗等が多く、人口が集中する地区でもあり一定の需要が見込まれるため、区間を限定して運行している。

使用している車両は、座席数 11 席、立って乗車する方を含め、乗車定員 36 名の小型バス車両で、1 日の運行便は 10 便で料金は 100 円である。(加須駅を終点に 2 コースで運行している。)

(4) 結節点

3つのエリア間や、各コミュニティを連携するために設定しており、加須駅、花崎駅、道の駅の3か所に設置してある。

(5) 運行业務スキーム

市内交通業者に(3社)で構成する加須市コミュニティバス円滑運行協議会と基本協定を締結し、業務委託し運営費補助を行っている。運行協議会で、デマンド型乗合タクシーの予約の受付を3名の臨時社員で対応している。(利用するには、事前に利用登録書を市に提出する)

(6) 基本事項

運休日 毎週日曜日、年末年始(12/29~1/3)

業務時間 午前7時から午後6時まで(乗合タクシー午後4時30分)

(7) 収支状況(平成30年度決算)

| | | |
|------|------------|-------------|
| 収入 | 利用料金 | 4,144,296円 |
| | 回数券売上 | 8,690,000円 |
| | ※国庫補助金 | 3,192,000円 |
| | 合計① | 16,026,296円 |
| 支出 | 委託料(運行協議会) | 12,331,727円 |
| | 運行経費 | 79,709,635円 |
| | その他 | 20,442円 |
| | 合計② | 92,061,804円 |
| 市の決算 | ②-① | 76,035,508円 |
| 収支率 | ①/② | 17.4% |

※国庫補助金は、国土交通省の「交通不便地に係る地方公共交通確保改善事業費補助金」

【所感】

既存のタクシー事業者やバス事業者との共存と配慮した現行の運行ルール内でのコミュニティバスの運行改善及び運行コストの削減が一番の課題と感じた。

今後は市外への乗入れ等、区域の拡大も課題と思う。